

NWスライシングによる映像制作支援

独DT、5G NWスライシングを用いたライブビデオ制作サービスを販売開始

DTは、安定したライブブロードキャストが可能となる「5G Live Video Production」の販売を開始すると発表した。本サービスは、DTとドイツのメディア企業RTLが昨年から試験を実施してきたもので、RTLが初の商用顧客となる。

メリット

- ・ **ライブブロードキャストのアップロード速度が安定し、ライブイベントの安定的放送が保証される**
- ・ 本サービスの利用により、他のモバイルユーザーが気づくような不利益を与えない

対応機種

- ・ iOS17を搭載したiPhone 15およびiPhone14シリーズ
- ・ iPadOS17を搭載したiPad Pro

DTは、スマホやタブレットを使用して高品質な映像を放送できるようにすることで、モバイルジャーナリストと視聴者をさらに近づけたいと考えている。



下線部分のリンクを開くと、外部サイトの出典、参考記事が表示されます

NWスライシングによるセキュリティ強化

米T-Mobile、セキュリティソリューションにNWスライシングを活用

T-Mobileは、企業、政府機関向けのセキュリティソリューション Secure Access Service Edge (SASE)を導入すると発表した。

T-Mobileは、本ソリューションの特徴として、初のSIMベースのSASEソリューションであることに加え、**SASEトラフィック専用の安全なNWスライス**を顧客に提供**する**米**国初のソリューション**であることを強調している。**5G SA対応デバイスを使用するT-Mobile SASEソリューションの利用者は、Wi-Fi、LTE、NSA 5Gと比較して遅延の改善や速度の向上、セキュリティとコントロールの強化など、大きなメリットが得られる可能性がある**という。

T-Mobileの法人部門幹部Mishka Dehghanは、今回のNWスライシング活用は、T-Mobileが2020年に**5G SAを商用化して以来初のSAによる差別化を具現化したケース**であると述べている。

T-Mobileは本ソリューションを2023年中に商用化予定。



Copyright(C) 2023 KDDI Research, Inc. All Rights Reserved.

5Gによる救急対応支援

シンガポール、5Gで民間防衛を強化するプロジェクトを開始

情報通信メディア開発庁(IMDA)、ホームチーム科学技術庁(HTX)、シンガポール民間防衛隊(SCDF)、StarHub、IBMは、SCDFの**初期対応者をスマートグラス、AI、AR技術を使用して支援**する5Gプロジェクトを発表した。

プロジェクトでは、SCDFのスマート消防署と最新の消防緊急車両を用いて以下の試験が行われる。

- ・ **AIを活用した点検**：AI活用の外観検査、5G接続スマートグラスへのステップバイステップの手順・動的コンテンツ表示などにより、消防士が機器を点検する時間を節約する
- ・ **ARによる遠隔支援**：5G SAの超低遅延と広帯域幅により、リアルタイムでのAR遠隔支援が実行可能となる。火災後の調査において、指揮官が現場の専門家に注釈付きのAR映像を通じてガイダンスを提供することで、タイムリーな現場処理と分析を支援する

この2年間のプロジェクトは、企業による5G技術の活用を支援するIMDAの5Gイノベーションプログラムによって支援されている。

NW APIを通じたNW機能のマネタイズ

独DT、Network APIを世界で初めて商用化

DTは、開発者が標準化されたAPIを通じて高度なNW機能を活用するアプリケーションを開発可能とするNetwork APIを商用化したと発表した。

利用
基盤

- Ericssonが2022年7月に買収したVonageの[Vonage Communications Platform](#)(VCP)
- VCPは、開発者や企業が、音声、二要素認証などの通信機能をアプリケーションにプログラムできるようにするプラットフォームで、140万の開発者コミュニティを形成している

提供
API

- Quality-on-demand：アプリケーションがSIMカードに対し特定のサービス品質を要求
- Device Status - Roaming：端末がどの国にあるかを判断
- Device Location：SIMカードのモバイルNW内の位置を確認

DTは、このワンストップショップのプラットフォームにより、APIの利用障壁がさらに低くなり、中小企業もサービスを利用できるようになると期待している。

なお、調査会社STL Partnersは、2028年までに[Network APIによって生み出される収益機会は200億ドルを超える](#)と予想している。

下線部分のリンクを開くと、外部サイトの出典、参考記事が表示されます

NW API活用サービス

米Verizon、カナダBell、英Vodafone、Network APIを用いた5Gホログラム通話をデモ

相互運用性の確保を通じて5GとEdge Computing 対応ソリューションを世界中で提供可能とすることを目指す5G Future Forumは、**Network APIを活用して3社のモバイルNW利用者をホログラム通話でつなぐデモ**を行った。本デモでは、アプリケーションが最適なエッジサーバーを簡単に見つけることを支援する**Edge Discovery Service APIが活用**された。5G Future Forumは、このAPI活用により、通信事業者間で安定した通信を確立し、遅延短縮や帯域幅の拡大など、製品のパフォーマンスを向上し、顧客に強化された体験を提供するとしている。

5G Future Forumは、Network APIを推進しているGSMA Open GatewayイニシアチブとLinux FoundationのCAMARAプロジェクトと緊密に連携し、グローバルなNetwork APIエコシステムの構築に貢献するとしている。

デモは、ホログラフィックプレゼンスのためのリアルタイムソフトウェアソリューションを提供するMATSUKOと協力して行われた。



Copyright(C) 2023 KDDI Research, Inc. All Rights Reserved.

6Gに関する通信事業者の視点

NGMN、6Gに関する期待と指針を表明

仏Orange、英Vodafone、韓SKT、中国移动など23の通信事業者が参加するNGMNアライアンスは、6G Position Statementと題した声明を発表した。

主な指針

6Gの対応が5G RANハードウェアの更改を本質的に必要としないこと、ソフトウェアアップグレードによる6G要件対応、5Gとの相互運用性確保など

イノベーション、新サービス

- ・センシングと通信融合、AI、AR/VR、測位の強化
- ・固定・衛星NWとのシームレスな統合と相互運用性
- ・NW APIを活用した新サービス提供促進

運用上の優先事項

- ・NW簡素化により、スケラビリティと柔軟な導入モデルを維持しながら、運用コストを削減
- ・モバイル・固定NW全体でエネルギーを削減
- ・AIなどの機能によりNW運用自動化とオーケストレーションをサポートし、効率的で動的なサービスプロビジョニングを可能とする
- ・モバイル・固定網のプロアクティブなNW管理機能による予知保全
- ・量子コンピュータによるNW安全性・攻撃耐性向上